

令和4年度 飯塚市事務事業評価シート

令和 5 年 6 月 7 日 作成

事務事業名	下水道施設（ポンプ場・処理場）の整備事業	事務事業No.	683 - 7
-------	----------------------	---------	---------

1. 基本情報

担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名
企業局	下水道課	施設係	係長	白土 哲也	課長	西岡 真結
施策体系	総合計画	政策	6	都市基盤・生活基盤		
		施策	8	上下水道の整備		
		基本事業	3	公共下水道事業の推進		
	その他の計画	個別計画	飯塚市下水道ストックマネジメント計画			
根拠法令・条例・要綱等	都市計画法、下水道法、飯塚市下水道条例、飯塚市下水道条例施行規程					
事業開始年度	平成4年度	事業終了年度	なし	事務事業類型	施設整備事業	
実施手法	全部直営	補助金等の支給	なし	実施計画期間	令和3年度～令和7年度	

2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と連動）

概要	下水道施設（終末処理場及びポンプ場）の機械・電気機器等の改築・更新工事を行い、下水道施設を適切に運用できる状態を保持する。なお、ポンプ場は、片島ポンプ場、露切・下三緒・目尾汚水中継ポンプ場、芦原・東町雨水ポンプ場である。					
対象	働きかける相手・もの	終末処理場1箇所、ポンプ場6箇所の機械・電気機器等				
手段	方法・働きかけ（活動指標）	改築・更新工事を行う				
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	ストックマネジメント計画期間（令和3年度～令和7年度）に機械・電気機器等の改築を43ユニット実施する。令和7年度までに改築実施率100%を達成することにより、下水道施設を適切に運用できる状態を保持する。				

3. 活動指標（決算成果説明書と連動）

指標名	単位	指標の説明（算式等）	前年度実績	本年度実績	次年度見込
改築機器ユニット数	台	年度内に更新したユニット数	3	2	4

4. 成果指標（決算成果説明書と連動）

指標	単位	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
機器の改築計画達成率	%	100	6.98	11.63	20.93
説明	方向性	達成目標年度	実績	6.98	11.63
	維持	毎年度	達成率	100.00%	100.00%
指標	単位	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
説明	方向性	達成目標年度	実績		
			達成率	#DIV/0!	#DIV/0!
指標	単位	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
説明	方向性	達成目標年度	実績		
			達成率	#DIV/0!	#DIV/0!

5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と連動）

経費区分	一般会計	-		特別会計	-						
予算科目・事業	会計	0	飯塚市下水道事業会計	款	4	資本的支出					
	大	0	施設改良費（ポンプ場・処理場分）	中	0	施設改良費（ポンプ場・処理場分）					
投入人員 （当該事務事業に対して1年間に投入した人員）	(R2以降)	前年度実績実績(千円)		本年度実績(千円)		増減理由（10%以上の場合）	次年度予算(千円)				
	正職員	1.55	人	12,704	1.15	人	8,980	1.55	人	12,103	
	任期付職員(保育士)	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0	
	任期付職員(子ども家庭支援員)		人		0.00	人	0	0.00	人	0	
	任期付職員(CW・水質)	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0	
	再任用フル	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0	
	再任用短	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0	
	会計年度	1級フル	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0
		1級パート	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0
		2級パート	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0
人件費計（A）	12,704		8,980		年度ごとに処理場・ポンプ場の改築内容が異なり、それに伴う増減があるため		12,103				
事業費	直接事業費（B）	337,117		140,348		153,040					
	総事業費（A+B）	349,821		149,328		165,143					
直接事業費のうち の主な歳出内訳	委託料	24,165		10,644		0					
	工事請負費	312,953		129,705		153,040					
財源内訳	使用料・手数料（受益者負担分）	0		0		0					
	国・県支出金	158,194		68,013		62,670					
	市債	126,555		54,345		50,136					
	一般財源	65,072		26,970		52,337					
	その他（ ）										

**6. 事務事業の事後評価★**

評価視点	評価項目	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性 評価 (上位施策/ 成果)	市の関与の妥当性	妥当	下水道法第3条で公共下水道の管理は市町村が行うものと明記されている。
	目的の妥当性	妥当	安定した公共下水道を運用するため、妥当である。
	対象(受益者)の妥当性	妥当	公衆衛生の向上及び公共用水域の水質保全に寄与しているため、妥当である。
効率性 評価 (活動量/ コスト)	コスト削減・コスト効率化	余地なし	計画・設計段階において、コストを最小化しており、実施についても直営で行っており、現状の手段が最適である。
	負担割合の適正化	適正	受益者が負担すべき事業であるため、適正である。
	手段の最適性	最適	他に類似事業、関連事業がないため、最適である。
有効性 評価 (成果/ 活動量)	目標達成度	達成	施設の長寿命化につながっており、期待される成果は確認できている。なお、休廃止等により事業が滞った場合、下水を処理できず、放流水水質が公共用水域の水質基準を超過する恐れがあるため、事業を継続する必要がある。
	上位施策への貢献度	貢献できた	改築更新事業を実施することで、処理機能を維持し、水質環境を保全することができている。
	事業継続の有効性	ある	現在、改築予定のない機器についても、年数が経過するにつれて随時、改築の必要性が出てくるので、改築計画自体も毎年見直しし、事業を継続する必要がある。

**7. 前年度評価時の計画と実績**

前年度評価★		前年度記載した改善策(課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策)★	
評価区分	方向性	次年度以降に予算(コスト)を必要とせず、直ちに実施できる改善策	終末処理場やポンプ場の維持管理部門との調整を随時行い、無駄な仮設費等の発生を防ぐ。
一次評価	⑤コスト・成果ともに現状維持	次年度以降に予算(コスト)増を必要とし、中長期的に実施する改善策	毎年度、計画を見直すことにより、事業費の平準化、工事費の縮減に努める。

前年度改善策に対する実績 ★ ※上記の改善策に対して今年度実施できたこと、などを記入

ポンプ場の維持管理部門との調整を随時行い、無駄な仮設費等の発生を防ぐことができた。  
 ポンプ場の改築更新計画の実施にあたり、工法・手法を見直すことで事業費の平準化、工事費の縮減を実施することができた。

**8. 今年度評価における成果と課題(決算成果説明書と連動)★**

【成果】 下水処理施設の処理機能を維持するため、令和4年度は電気機器2ユニットを更新することで、目標である改築率を11.63%まで向上することができた。

【課題】 終末処理場や各ポンプ場は老朽化による機能低下が著しく、今後の大規模改築等がさらに必要となるため、計画を作成していくことが重要である。

**9. 今後の事業の方向性と改善策**

成果の方向性	拡充				評価区分	事務事業の方向性
	現状維持	④	②	①		
	縮小	コスト投入の方向性			一次評価	⑤コスト・成果ともに現状維持
	休・廃止				二次評価	⑤コスト・成果ともに現状維持
		⑦				

次年度以降の改善策(課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策)★

コスト(人・予算等)を必要とせず、ただちに実施できる改善策  
 終末処理場やポンプ場の維持管理部門との調整を随時行い、無駄な仮設費等の発生を防ぐ。

コスト(人・予算等)を必要とし、中長期的に実施する改善策  
 毎年度、計画を見直すことにより、事業費の平準化、工事費の縮減に努める。

評価変更理由	一次評価のとおりとする。
--------	--------------